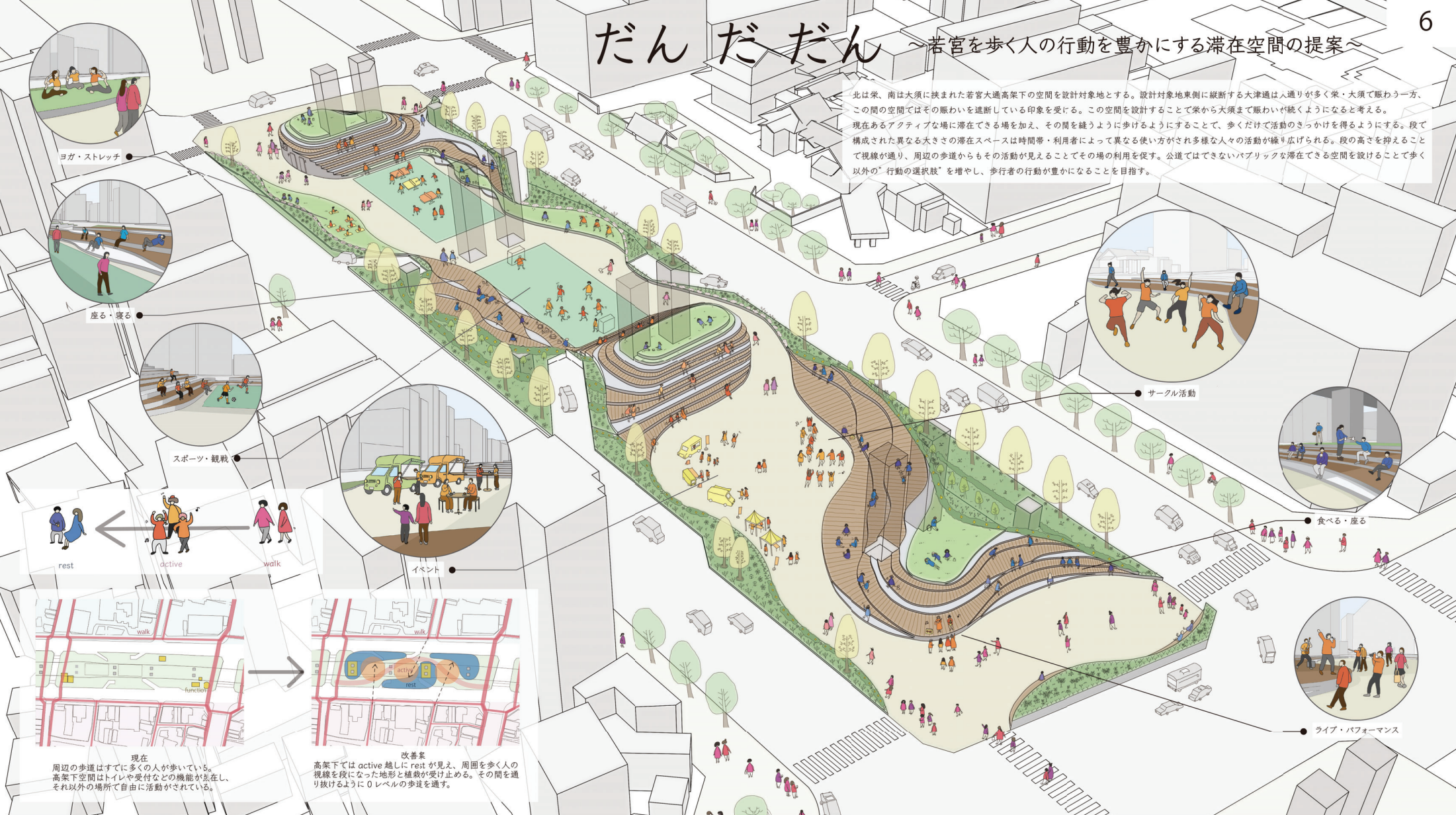


だんだん ～若宮を歩く人の行動を豊かにする滞在空間の提案～

北は栄、南は大須に挟まれた若宮大通高架下の空間を設計対象地とする。設計対象地東側に縦断する大津通は入りが多く栄・大須で賑わう一方、この間の空間ではその賑わいを遮断している印象を受ける。この空間を設計することで栄から大須まで賑わいが続くようになることを考える。現在あるアクティブな場に滞在できる場を加え、その間を縫うように歩けるようにすることで、歩くだけで活動のきっかけを得るようにする。段で構成された異なる大きさの滞在スペースは時間帯・利用者によって異なる使い方がされ多様な人々の活動が繰り広げられる。段の高さを抑えることで視線が通り、周辺の歩道からもその活動が見えることでその場の利用を促す。公道ではできないパブリックな滞在できる空間を設けることで歩く以外の「行動の選択肢」を増やし、歩行者の行動が豊かになることを目指す。



大津通の大須側の横断歩道を歩きながら人々の滞在を横目に見る



地面より高い位置に座って飲食しながら賑わいの広場での活動を見下ろす



北側の落ち着いたたまりで休憩しながらフットサルの試合を観戦する



南側の歩道を抜けた先で高架下を見るとactiveの滞り越しにrestの滞在が見える